

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所まりん		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 7日		2025年 1月 11日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	48 (回答者数)	45
○従業者評価実施期間	2024年 12月23日		2024年 12月 25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7 (回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動によってグループを分け、課題にあった取り組みを行っている	<ul style="list-style-type: none"> 環境設定の工夫(部屋の仕切り、場所等) 小グループや集団、個別に取り組める活動や時間の設定 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの発達観や特性に応じた活動の設定を行い、楽しみながらできる内容をこれからも検討していく。 各職員が自覚的に企画、運営し、どうやったらいいか、なぜなのかと学ぶ姿勢を作っていく。そのために、園内外の研修に参加していく。 教材研究や教材作りを行い、子どもにとって分かりやすい、楽しめるものをさらに作っていく。
2	保護者と話ができる機会を作っている	<ul style="list-style-type: none"> 送迎時に対面で話す場 登園時の連絡帳にて、様子や悩みの共有 定期的な個人懇談 参観懇談会の開催(保護者同士の交流、子どもの様子の見学等) 	<ul style="list-style-type: none"> バス送迎児の保護者と比較的に少なくなりがちなので、連絡帳の活用や個人懇談にて話をするよう心がけていく。 保護者が話をしやすい時間帯や参加しやすい機会の設定を心がけていく。
3	職員間でのコミュニケーションが取れている	<ul style="list-style-type: none"> リーダーを各曜日で担当し助け合うシステムができており、多角的に子どもの姿の共有ができています。 今日の子どもの様子や活動を振り返る時間を出来るだけ作り、話をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 気を張らず話ができる場を作り、様子を共有していく。 会議日を設定しながら、子どもの様子や課題を話す機会を作っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	園庭がない	<ul style="list-style-type: none"> 市内中心部で利用のしやすさはあるが、児童発達の専用の園庭はない。(併設しているこども園の園庭があるため、必要に応じて共有することは可能であると考えている) 	<ul style="list-style-type: none"> ブレイルームや屋上等で、身体をしっかりと動かせる場所や時間を設定。 ブレイルームの遊具内容を変更し、随時身体を使う遊びを設定していく。 併設しているこども園、法人内他の保育園の園庭を共有していけるように検討していく。
2	法人内や他施設との情報共有のしにくさがある	<ul style="list-style-type: none"> 法人内においては、介護中心のため情報の共有のしにくさがある。 他施設は、感染症の拡大に伴い会議の開催や参加のしにくさがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> 法人内では、事業所の内容や課題について知ってもら場や会議への参加等を通して、情報共有を行う。 コロナ感染対策に伴う制限緩和に伴い、可能な限り会議への参加し情報共有を行う。
3	事務や会議時間の確保が難しい	<ul style="list-style-type: none"> 書類や事務、連携や会議等が増え時間の確保が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 事務、会議、連携日を設ける。